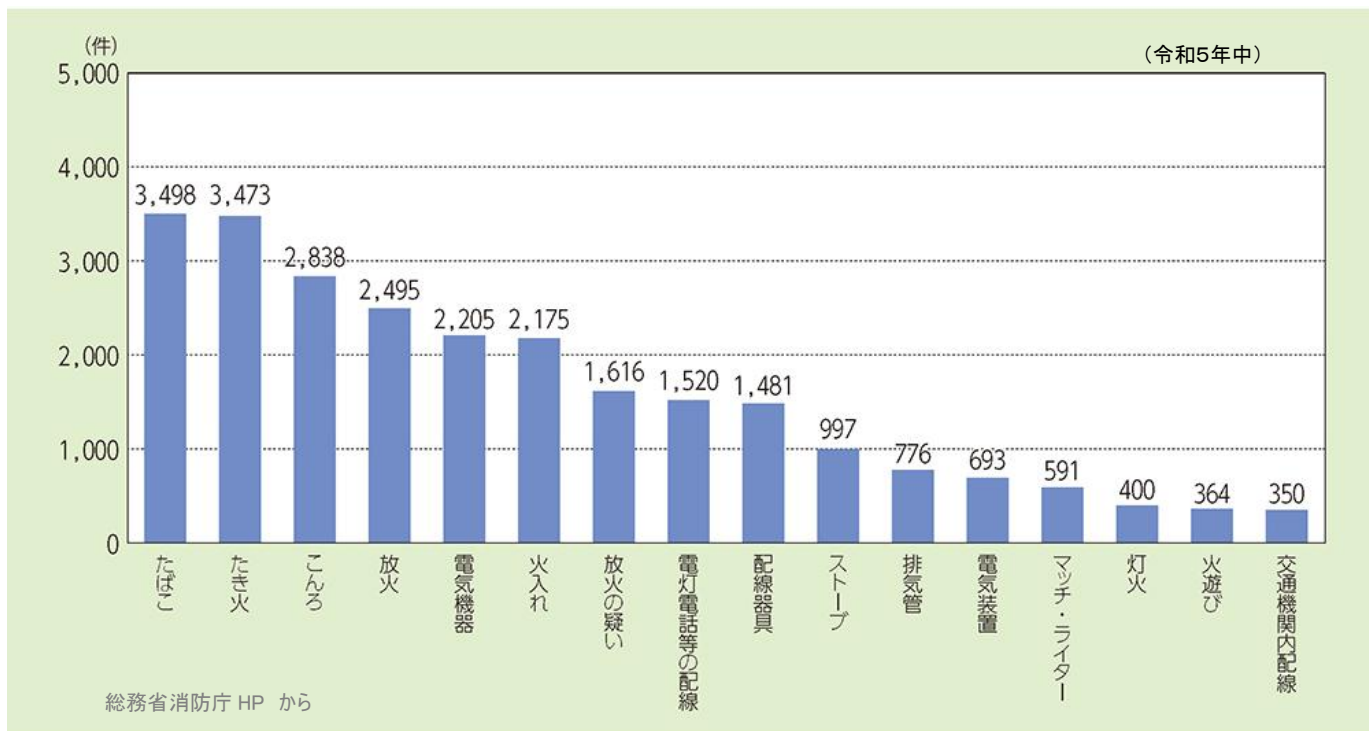


週刊 タバコの正体

下表は総務省消防庁の令和6年度消防白書で公表された出火原因をグラフにしたものです。よく見て下さい、一番多いのは“たばこ”です。



吸い終わった紙巻タバコの吸い殻からは炎は見えませんが、完全に消火しないまま捨てられる危険性が高いのです。一見消えているように見えたタバコを灰皿に放置すると、写真のようにだいぶ時間が経過してから炎をあげて燃え出します。吸い殻を捨てた時は“消えている”と思っていても、数時間後に大火事になる可能性があるわけです。

タバコの煙は人々の健康を害することに加え、その火は短時間で人々の家屋や財産を焼き付きしてしまうかも知れないのです。その危険性をあらためて認識しておいて下さい。

産業デザイン科 奥田 恭久

プラスチック製コップを灰皿として使用



①プラスチック製コップを
灰皿で使用



②たばこの火種が接触し
無炎燃焼中 (10分経過)



③有炎燃焼の状況
(22分経過)
京橋消防団 HP から